東海道中膝栗毛五編

九上

ヘ13
3286
9

本清

勝栗毛五編序

歌人ハ居所を移シ名所を
尋ネ。雅人ハ行て名不詳
探る。今年五編目の
獵栗毛を十編合法

門へ13
號3286
巻9

昭和十六年一月十一日
尾野貴英氏寄贈

主人の手跡をかいそうく
そうかけ入れば伊勢の海
千尋の底ふ深くうがちく
酒盃を花ちる貝あし。古詠を
温て新しく趣向を見すぼ

筆のすさみ不ふ。手も疎をのら
名ふをを走て馬。さ行る新なて
唐すぶ志と。是作者の需ふ
遊ぶてといふ其の皮をを先ん
せぬ日筆を採しを跡へ

一杯がすぎ田のむ炊の香ふ
ひうれしるうかきんさ旅え
赤余景の仕るゆと渇んを

文化丙寅春

鬼山人蘭夜誌

多年ものとあろう
なのまんとしとしひくよ
くもをあのまるる
光ゆくりの

茶屋

十返舎一九

豊國画

附言 併凡例

予今年神無月廿日あまりいつかにて。百の納おりのはしもとに
年あまりさゝよ枝をそ世。伊世路よ都きよ内かの宮巡りを
して帰りて。雪ふるの五月みなゝそよりして此五
編目の廿五より。彫工れのうちにて。須臾も
暇をおくまはし。彫るふいづれの人の編ア人。孫栗毛績
編といへるもの。皇都の出様ぐうりしりとて。上絵屋
ものみちる人のうちにおこせり。予ゝ月におこせり。予ゝ
関せるまを。排役つぎやうして。清稿るもも工ミ

ちゝ。ちゝ。ちゝ。ちゝ。かゝる事の文をとりて。ゝて用ミ
せぎるゝそふ雪ふれ。そハゝを書る人ゝ抜ゝ。彩ゝ
ゝゝるの法ちるべ秋。秋さゝゝど予このおるの川れ水て
ゝハゝるの平基ちりて此ゝ予今五冊目ゝゝる
ゝて。此ゝ人ゝを結ひのゝる人のあゝゝと。ゝ様の
書びゝ。盗ゝ栗ゝもの尾ゝ尾をひゝゝ。
ゝゝるゝ平おぼゝの形
或人曰。此事初作ゝ四冊ゝ。ゝ冊ゝ。ゝ冊ゝ
北八なるゝ。此ゝ月ゝ。ゝ一ゝゝ。こハ大

江都と云せしよりの名所なれハこの不
ぶ中。手答同。古くひ新しの刻きざくるの
ゝゝけん
ゝゝ年と見るまゝ孔雀人情の美別方言の
おのゝ。こゝ成。くるて。穴くるまて。筆のまゝ
十指を出ゝ。されぶ方ゝざるゝ穴雅じ
のゝるゝゝ。手ぶるのゝ年なゝ水ぶ。ゝまゝ
ゝゝて追加せ出せ。手毎ゝ雅
器中版業おゝ中の鶴ハ。ゝ年毎ゝ雅
あゝハゝてるゝゝゝ作者の筆ゝ

ゝて。穴不取追ゝゝゝと仕掛ゝゝゝの
あゝれて。年夏ゝゝて。ゝゝゝ南北八の四日
市伯の浜所ゝ
寺海ゝ追ゝゝゝゝと上ゝゝゝ。ゝ家伊世
ゝゝ水ゝて。ゝ無ゝ紙ゝゝ追ゝ制ゝ
田ゝ母ゝの手ゝとゝぶて。ゝ編ゝ妙ゝ所ゝ
ゝ古ゝの拾ゝ桐ゝ心ゝ色ゝ
ゝゝゝて山ゝ

蕉〻聞及貴公才
一遍相逢親十回
探得神都彼代宛
翻〻兼都栗毛来

和歌

返答一九生自筆

還戯歌以送　歌茅園作

東海道中膝栗毛五編上

十返舎一九著

本清

宮重大根の下しくらべ蒲鉾の松の風
の芋の長崎と七里の日照り沼の水ふくれて来た
海鼠腔なる。蕈々ふけまする蛸の赤まつ。あん
ぶの焼蛤よ酒くさ加減かしてやの法華経三千部
なるものやうて夜を夜を乗こ。ばかりよ。山伏猫人の
うさうとおけば待つ小さ。ばれまるぐ。ふげふさんせ実の

八百屋さんの
春の八日を
松かざり
ゆめせく春を
毛阪
椒翁
田東

おまへが情ぶかいコリヤ。よッしッかりよ。コレ見届元戻り
るのうんせんをよッしッかりよ。やまんぐ。うんぐ。ぐ。
ゆッまんぐ。よッしッかりよ。せうろく。ぐ。文でのるべんぐ。
ちッかりよッせよッせ。ヒイン〳〵。孫八ナア。遠くまよ
加らけてもるもンエ。ちやく。サア。あつ丈よ。ナンアエ
八ぐ。ぐ。ぐ。でものんぐ。なんぐ。ぐ。孫ンア。ぐ。
ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
まをのふぐやアちんぐ。おめの義理。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

ゆッてひッかりがひッかりはいで。ぐ。日ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
のまうちんぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
おいッう。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
りの八ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
他のあらひぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
やせうぜ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
うけて。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。
ちけよ。ナントよッぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。ぐ。

モシ　はなへちんぐいてゑんでござりまして　ヨサ　風が
風　暖　であるちぶさりでおさりまして　かりふきりのごとく
おりゑりてゆくなり。
くもたく村・安中村をすぎて。
碓氷川ふきりれい坂をあがりて茶屋あるぞ

旅人を茶屋の暖簾招りせく
のぼりくだりを　まちぐ　川くる

軒ちかくてちを村おかけ村ふでりつく。山あるも
峠の名抽。旅人を乃ちけて。ひどく沖の所と給えく
おそりなりまァせ。法師もおかもざりまを。

おそくなりまァせ。かるいうまんらる。これ
かゝ二里半の長丁場じゃ。安らしてめさぬ。イヤかどへ
入ぬ。あのおやさ。はなとのさりふしてたんせ。戻り
おやゝまあふ。ぶんなへおひろふがおそいぞ。
モシはなは。やまとしてゆまんらる。やまとへいゆぞるく
ゆるなりのりやさりそ。うるしてこの口ぶできま
まよりんるいぶぐ。ちりかるくゆ。極へ八アまんぐ
やさいなゝ。やこげんこで。まを貴五百だりあるの。

やうなら[ご]をめつてゐる。[ご]は大も高麦[ごく]利[ごく]なれよ
ゆくえいでられませぬ。さあてゐ面でめ〜そでんせんらい
[ほこ]れぐるも安んく〜いゆぐ[ご]十ア二やさんこんでいあ〜まん。
そ〜〜。[ご]られ[ご]七百ぐんせ[ほこ]ぞ〜めんどぐ。ゆくなし
き無ゐ百よりまう〜ぬくく[ご]そそ扨こまう〜りんどや。
[ほこ]れよりちともまう〜まいら[ほこ]まうぬく[ご]ゐ[ご]なんの
[元]るすどやかごらなのかう〜。[ほこ]ぎろ〜いゆめづらい。まよ
がうぐ〜。きメゐ百でゆ〜きいらい。サア[ほこ]ぬ[ほこ]めませく

[四]それでいろ〜。[こう]くのいてゆるうゐ。[さらて]汚まとこいちへ
世〜ふゆやちく〜めぐがいてん[ご]あげませども[ほこ]そん
ちく〜きいいて。きゐ無四百ゐ[ほこ]又。こうちへ汚まゐ[ほこ]
ひゐて。のこうゐ千のかごちんぐ。それで[せうち]知ゐごゐぐ
[ほこ]そそんるこんであ〜ぐ。こひゐうもちん[ほこ]そこでまげ
ゐんきうぐ〜〜[ゆく]こいいいいゐ[ほこ]ぬぐでいきく

よび人をのせるけりでかる[ごき]喫乃
こ[ゆく]ん あ[ゆく]ぐよ かつぐれよりあり

くあげて鍋釜に拵るとうちまぜ煎用のうへ湯ふつふつ
たるゆ。是いまつゆ焼たる食ぐのものづつ取例ふ蒸屋
のき
軒をちかくべ沸て来を呼ふる事よひりて蒸屋て
ふ蒸あ[illegible]とうるとおもゆまぜまして[illegible]ちやと二ツ
ふんて出り
ほうてうへさし出を沸ぐ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]の[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ちややの板の[illegible]ふあぐ[illegible]
きさハもやうくなべ付のきどく
まて[illegible]よろまぜまぜ。コレ女中。お
めーと二ぜん出してくんる[illegible]ハイ〳〵ちやぐでおあぐり
なされまちとう[illegible]イヤ箸でくふやせう[illegible]ヨホ〳〵ト[illegible]ふ

いろ〳〵のうまるものゆへ[illegible]ぐを[illegible]コウ沸いつのぐあるうの
れをもつくこと[illegible]ぐそくやくう[illegible]
[illegible]沸ぐ[illegible]ぐ[illegible]て。[illegible]
[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ

あゝべゑてくるゝ。たゝはけぬ家雖で。コレはゝ。あゝ
ぢうぐるぐるけふあゆまと。ゆんゆあゆふたゞめて
ヨりうどとおたれちまうくらう。たゞあうぎれぐ再度
くゝこえんぐくとうこれはあんまり見ぐるいうぐ
くゝぐうじのひもぐうへうんさのぐゃ財ふたゞぐうへ
ハイ見今あげ歩きト大きふ表をゞとかさゆて
コウ活けうん及ちゆせいろふふうくゝをぜんりてまてまへる
コレくうのむたゆぐおめへの服いちくゝ歩ておいくぐ

のいこのうくむりり。隙泉乃の一見様くいりんぐて
うゆくへ活へゞぐゞめ。むたゆぐ。たゆしあくりの
りのとゞれくこのぐくくゝ見てぐるもおうんゝリャアゆめへ
くゝたくまるのぐゝ小ゆぜくゝ活べてはうぐうぐでい
上下のものや。仕のものへゝ服とむりりふくて出たと
りくゝぐゞれぐくゝ維ぐ同ふもおれいゝ活る。ゆめへい
お仕と及ゆくくゝ小ゆゝちいめへまくの活いくゝたゞぐう
とりくくんゆせへ小ハイくゝ又ゆゝたゞぐう活大きふりてぐも活おまへの

あさけのさと　星川

さゝ原も　葉ゝとゝ
いてゝ
さゝの名の
ゝ鶴ゝ　きけそ
いとゝ星川

尾陽　蛙面水

日永川

今ゝひゝ
あさ鶴の
さゝも
ゝゝゝ
ゝゝの日永
ゝゝゝゝて

仝　南瓜蔓人

さなぐりなり。みとうまうろふト女のちうとちよりをまるヲホ〜ぐんな
さないよりわるくてしやかれもわるくよりトおるどくちうきうふうれば
コレよさんせさうぬくさんんじやどよでもおいしとべ
やきくちやアぐるトぶうくこでとといふうちわれ女中あれ
ちうのまのくくコヨンあまりまもちあめさく。絵朱の
ちんはぐくかんセッでござりまもちあめさく。絵朱の
ちうう。ちうう。おれがはるさなぐ。コリヤく。浅ぐ。ちう。
おれはりよるふもかるふもかるあきくはちうく
ひろんませう。ちうをとうけてきやれをひらうけね

ちうくでこ。はや。はやぐはぐはだうけぐだうといふ。
わぐくまわくはぐけぐ。ひくくのはぐいくはみるはれて
みるうくイヤはるよむうはてくまわくはてくまわくはてくまわくはて
ふもおもうちくやうふハテ。浅ぐ。ぜんぐ男ぐ。アそはちふ
おきふれイヤちふはちぬトつはうはと。浅ぐはくはくはぐ
ひうくうくとひふはふはふなぐはぐ。浅ぐはくはくはぐ
浅ぐくくくのみくくひうはくくちうトアッくくくなぐはぐの法面が
さうぐれてアッくくくドくくトかくくく

コリヤ　ごまする。きんゝゑがごげゝアトりふゝちゃゝくゝ（ひろの）
ゑゑがごりいろ（ゆび）ゝゝまづいは安（あんざん）産でおめでゝ（祝）ゝきれ而
うりとかちる（まくの）あいせをひろげると。
おきア祝ゝんごめふあゝゝ（世）おけがへどざうませ取ろ
（祝）けがいせぬがまぐ（後）の中がぴゝくゝまる（やば）ゝゝゝ
ろ月　茶いまぐ入ゝ（まま）祝ごもゑゑがごりの
中けごふはけけてようむ　さりれゝゝ
それより出ゝゝゝ出。ろ村ハ（まん）情を折る。七ッ赤
あゝゝ川よいゝ比。宮市の宿（ひき）引出向ひて（とれん）

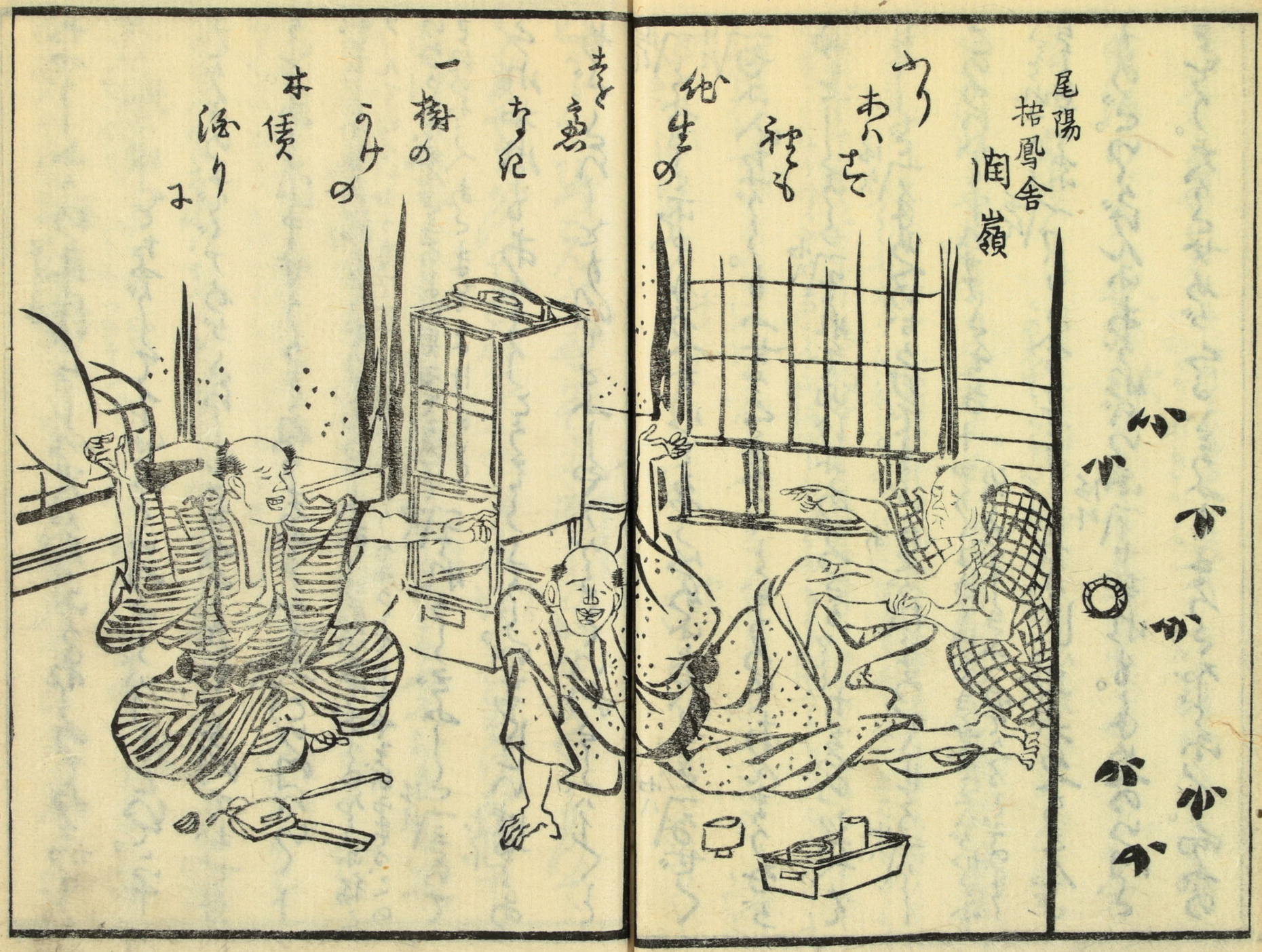
おゝゝゝござうまん。ゝゝゝゝおゝゝゝおゝゝゝゝ上
まゝと（祝）ゝゝゝアゝ茶（おび）へ（書引）ゝゝゝを（祝）ゝゝ今夕ハお大名
さゑ。おゝゝゝゝ

くハせるゝ。そして酒も菓子も出しなさる。コリヤアごまかしてもゐらまあて。別は茶代と称百文ばかりの不。
ゆつぽう中ちゃんぐらい。大ぶ不安ゝ。きまりのあしもそのはりで北をさるぐつ。中ゝとまりまして。とぶくれ
なぐらちつれてゆくもあり不。ゐる市の一サアどこでだまりまを。コレぐらいでるふいこれば中ゝ引ゝけぐして。
おしまりまるしや中ゝの女房一おつ江ちきいまさト
あいさろのくらいぶるいこゝじと是はなぐゝ是まゐ世びいろてもさろしきゝ
宿まそへくちふもをけゝうそよふいうゝるぜんゝまゝとられう巳ろふいの
ある一ちそ。ゆ。ゝ。ゝ。ゝ

こゝろさしてまゐりまし。今はいとまの申し上げ給へあらまほしう商人イヤ
とゝのへでござりませぬ。そこをあげて御らんじませ。ドレ
パツ〳〵。さてもまた稲〳〵こゝひがるい。さつちりのいぢよ
ぢやいトきまるは商人ぢやでさるぞ〳〵。ひがよりよこぎりませう。イヤこれも
稲〳〵。大ぐつりぬ。ぬしんせ。さておりうち清〳〵しいこ
商人あちらのひざをめえてちりまを。イヤアコリヤ〳〵大ぐ
のきりもんを撰らいこ。プツ〳〵。イヤこちのふよ縁の生る
こぢこいいりちんせ。商人イヤさやうちり〳〵トラぢこ
ぐ出てりあぐて。サア法さん。法ふたりあ稲へ。あちこお
めりちきりませ。イヤ〳〵。あぐるちりつくぜ
ぶ。あぐるちりがちりつくぜ
ぶ。今のちを風呂場でちよひと繋つておいたも
のりやりんこりふ。ぐふ〳〵。あれが法ふりて
ぬる玉。おぬるくらいぢりまぬりとりてせおつこり。
きぐふこと。稲米。まぐひりて年婚がたへる
かり。おめ。法ふ入てまりてねちせ。大ぐこ。こ入るこい
ちぐ。遠稲。ちりをうけるぶ。法代。ちをちく。

ドレ入イ事やせう。トほそ〳〵ハゆゆ。ふうゝ又ハイ焼き射い入ませぬら
白湯あがり申せぬう。ヲットとそ。ひくうあきんハ人その事ちうをめーえる
ヲトゝ〳〵よしく。トちやほんまつぐせてぜをきたひハよしく。これで
らのあまうちうさあふ。ふ。ふうけ
くこれがやとまるぐろふ。こもちふこもちあんちすいやあい
ととろ。トよくゝ。ふうけうけ。氏内ほそ〳〵ハ。湯ゆひて。ぜのるのをまてでもく。
いつゝふまゝまゝまゝ。のゆびをーぜくふあゝひて。ぎでくめうち
まちがうけとも。おまうあがう。湯をしてゆけふあがう。ちうだのたちかちうれて
くまゝ〳〵あうみるふハハまうふほそうがるゆるゆくそうとふうぐくのそうまま
きうこの。ヤアく〳〵ほそんぐふ。〳〵〳〵こりやさいへんぐト。ほそうがふ
ふいさとて。
あをぎ。ほそんく。ヲ〳〵ウ〳〵ウ〳〵ハうく。ぐせこのぐく

ぐふ。ふうまめへおれを。ふうふめふあハ〳〵ハるぜく
西ふ入ちあがゝ。ふ女がくるうくゝちまうてあんまうるがゞ
ゆとゝ〳〵〳〵ハそれでゆけふあがゝ。ちうの紙へて
ちゝぐ。ほそくまめへのちうげで。まがぐひがうくまうハ〳〵
こうハおうゝんサアゝまうトあうくはきものときせきこハがふ
ひうみがゝきふうれてうるとそのまう
きをれてさも。ほそアゝ〳〵今ままゝ〳〵ちうきしさハおめもえんぐ
ちうきをふ。
ちのぐ。てうげんふあがぬハいふほそイヤおれも。ふめのいふと
ふとう。大うと女めがくるぐふうゝ。まうとがぐふく。ゆの


尾陽
拙鳳舎
陶嶺
一樹の
本債

ちゃぐーふぅの手綱（そーま）らーひぃ
ぐぁふぅあーってぃるかー。
コレ 背中（せるぅ）をちゃぐーてぃ下せてぃってぃ。ハイーこいて。こ
だぁくぅのだぐぁめぐ。ふぅーとぅとりってきやぁぐぁ
ってぃ。あーひぃませうぅとぬぅちゃぁぐぁ（ぐぁ）ぃこぅぃぃ
むちぅふぅぅ。孫（まご）ぐぁってぃるぐぁ。あーのゆびぃて。あーのやぅふぅ孫（まご）
ぅんでぃるぃぅぅめ。ぅんぐぁきのぅぃ男ぃてぃぅ。ぅぅ
ぅぅぅ。ぅぅぅ。ぅぅぅ。ぅぅぅ。ぅぅぅ。ぅぅぅ。ぅぅぅ。

ちゝふちゝつせて。ちゝ〜さつせる。ほそぐふうふや
あゝまいもでもちいぐ。ろちであさまとよけうつく
まるゝ。又あゝでさぐつまいいていちぶつりのふさん
せる。ちんぜんのあさまア。ちゝふちゝふちつけさつせさを
まちんく〜ゆりやかきのぐくるおてぐ。法めんなせへけ
ちゝふちあいぢをるも。他ちの孫〜ゆ〜ぐでゑ。
して力てちさりきせ〜ちんさぐをいいつせるやア。きう
まいもでもちいぐ。あんまりへとだうふさつせるう

ゆ八 ゆまあひ
〜ちゝりよ生辛ぐうう。かんゆ〜てうんちせへ〜イヤちんぐ
ちゝさんいゝ。ゝ〜ゝもとだうふさつせる。宮ぶう〜見て
ちるふ汚ものまちんで。生辛〜ゝ。ゆ〜ぐ〜ちゝ〜
ゆ八
まいゝゝ〜たてゝゝちゝ汚とのゝ〜ゆせあぐ。ぐゝぐ。なま
畧
辛ぐうう〜十二ゝ。ぐ汚とのむうん。ぐアつくさつせるる
ゆ八 大分
〜ありへでんぐあつくちるのあ〜ぐ辛くさいふさつき。先切 焼
ちく
対とふたちけさうう。ちゝ氏あ〜あぐ辛くさつて。ゝ〜氏
らふ〜ろ。ひよろうく。ゝ〜まぐかゆへのあゝ夏ふかつゝとを

きるコリャ〳〵畏
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]
[illegible]さま。[illegible]の[illegible]がよ[illegible]ぢ[illegible]
[illegible]ん[illegible]ん[illegible]ぢ[illegible]
らまん。[illegible]ぢ[illegible]
[illegible]
[illegible]

柳板ぶたづれさそうな。身をそるーーーぶちるであ
らふー。なふらがーーーさが者ども者あげてあるよふを。おち
ーーーーんなが同をとさるなさごろふ。こらへんぎる同ふ
あつこトあをとるふはちぷ。ちてあそも稲ーーつまーーぎーをを
くるせばーるがおちる。じゆだんひーーでさもくーーるしコリヤなさけ
なん同ふあつこ。ぎふぞ者ーうぶんぶいないーと。ーそぐーーてかんぐてるーーちかく
ーも者ーーぎ。ふ八も同を者ーーおき。これもぐんーーくをつーーひてるよふを
浦ーーーーーれと者ーー　きーーハーーく　ぐれーー浦ーさんぐの　コリヤ
ぶをゆーーるふ　ーーーーーく　浦ーく来てーれ　ーるんぐーく　浦ーこれを
ちーーーとりーーてーーれ。ぐーーく　ーードレーートをとのをーーて
ふーーーーー

ぎこ八まごそこふら〆ヲ〳〵ふにきん。おやへどこへいつこコウ
ちこの〆ここへ〆イヤそこ西ぐらちんあそこふ死ごりへ
ここも 芋ぐがけてあるかこ。かみ〳〵うそきこのこりいちご。
ヤ八 〆ヤ〳〵そんごこことつふ〆ヤ十二年 わんんこふアレあそこふアこん
ごこちふこ西ゆり食せこ。おこそろしやく〳〵トここうふこひこ
ヨ八 コレ〳〵。おれこそふおいてごゆまる。ここれふこんごこ
こいやアぐ〆てごゆゆ〳〵きこぐ日るくなつこ。コリヤこまこ
ぬく〳〵トがく〳〵ゆるひ西ゆゆこここのこゆがごここく
ここやゆる日ぬと。きこ八ゆげいごせ〳〵ごうこ〳〵こて

こまごふここ〳〵ここうこうこちこのものおこふ〆ヲ
ここふこいしものここ〳〵ごこ〳〵ごこ〳〵ご

ちゃんぢゃ。イヤこゝは狐てあるいぶれだあい　ト　こもとまゝ焼きさ
ゝふとあげて　ア　ホ　ゝ　そ　ぞ　れ　て　よ　も　ま　つ　こ　こ　ん　ぢ　ん　ぢ　ん　ぢ

けれどもとゝさんでちなんぜ地蔵さまのおてるァ
うちかいるコリヤ昨日ゴーどもゞ村で今度建てる地蔵
さまどやきんのよ石屋どのゝらけろてゝ
ちゝゝゝど
ぢぢちるさまへおさあふやちゝぬがおら鼻ぶうちらけてゝ
ちゝていうれぬ。ちまのそとゝ中ごとろせ人（ちかいに近ちの人ぐ村のおきへ
おさあり地蔵さまこゝろかるりしゆへ）お地蔵さま
ことひれたちふまるしとたべうでいるいよくちきゝろう
のおさるもおさるだやゞおまいゞこのおなわ。ろんで
ちゝるゝいせるいゝぞふでもゞそんのいうぬゆゝゝじゃ。

ありゝゝふいひちゝまいいゝ（ゆハ）イヤゴーゝらいそんるりのぢァ
孫へゝゝるてゝといひちゝさんる。ちゝきそゝゝんの孫
人ぐ（男子）イニ子てふどやあゝまゝ。又てれでちふけゝゝゝゃァ
ちんぜ。今時分てさふ孫てゐさろせてゝ（ゆハ）イヤ（ちかいの。
ゝゝぶ
ゝふよちゝてゝ（ふも）ちかけてゝをけくきまいゝよあゝ孫へ
ざゝき
ゝゝ孫の孫（そん）さふふあるものを。さざめゝ（あい）ゝ有ふもいてで
あろふてるいる（まゝあ）ゝ仏（ぶつ）ゝくゃせんゴゝ（ゆハ）ふいいれちゃァ
ゴゝちも面（めん）ぢ同ちふぶ和（ぢ）をいいゝゃァ（あゝてい）ぢきこへね。ゝ孫ふ

いしやせう殿ヨサいふでゞのせるりんしやイヤ。ゞのも
おきうしいぶ。今はうちがこふまゞついておつこと
いよけい。ツイ拾遺よきそは拾のおちふ。うろうさ
のでこぞうやさと殿ナニ拾遺よきこイヤちやさるさんハ
こいけりんゞや。ゞこのゆふ。石地義さるめ巡拾遺
まて。ゞ世ゞるはりゞや殿いゞりよゞ。ろくるおこれ
ぬうちぬ殿コリヤこんゞ笑殿ふあとゞ法さんく
トよびこうる。せんこくより。法ちこんゞ。法ちこんゞ。
ちうまゞをよりぬうりうゞかよへ時分と古歌コリヤアゞるしも

おきゞくる。あアやアはろちがうけ合。うろんるりの
ゞやアおぢうやせ。アあうけんしてあうてうんなせへ。
地義さるの巣くゆうゞかけてこいひちさうゞふゞ
はろちふゆんゞで。あゞでハゞゞもいてしやせう。トいうく
ちうとこゞうをいひちしてゆもくんせんくまく。さるゞりはるの
ゞもはくあよあい。下ゞうりいうゞうとしてさるゞしふゞ

ちひうけゝ地義の影も三文仕
しもび
ます かゞうくるゞ尾の はるさま
そくぎん
かく即位の法ゞうゞ人ゞ行ゞのふ。ふのくゞどゞ笑ひと
けうら

ちよわ〜。やうくいきてきおさまりるゆで。いまづ
私のあくるゆへわづもあるんと。めいく程ぐ古ろふ
きらうるが。おぐらくあうて。ちや一ぢん船の名
ちるあめぐ。るのいるきおりてふきえ。法ろえ
きこへいそだあるぬておるそのへやどてけしめくと
ちいづるとて

やうくと寺法ろもちれのうん
ちかのうやこへ　四日　市ちより

それより清田村と打ちぶ。赤坂ふさ〜かうこるふ
ぢうう、こ。ぢ。ふ。ちぜふとてうこふけぐひ
法華寺ふ。ぢ。〜。男女ちぜふ。法ろうえ小ルもけふ
あうまうろうへ。ゆるるふやろ。法ろうえ小ルもけふ
ぢうう。ある軒ぢよ向ひて。ゆでおさりやまこ
おぐ〜。あれ見まうせへ。ぢ。ゆ。ふ。ちぜふ。ぢ。ふ
天蓋ちの隙ぢ海さるぶ。業名へ。ぢ。ふ。ちぜふ
ので。今ちををちうつせるかう。ぢ。ふ。ちぜふ。ぢ。ふ
見へるく　ト時ぐんぐ人すく。ちけく。ちへ。清。出ちく。ふ。ぢ。ふ。ぢ。ふ。ぢ

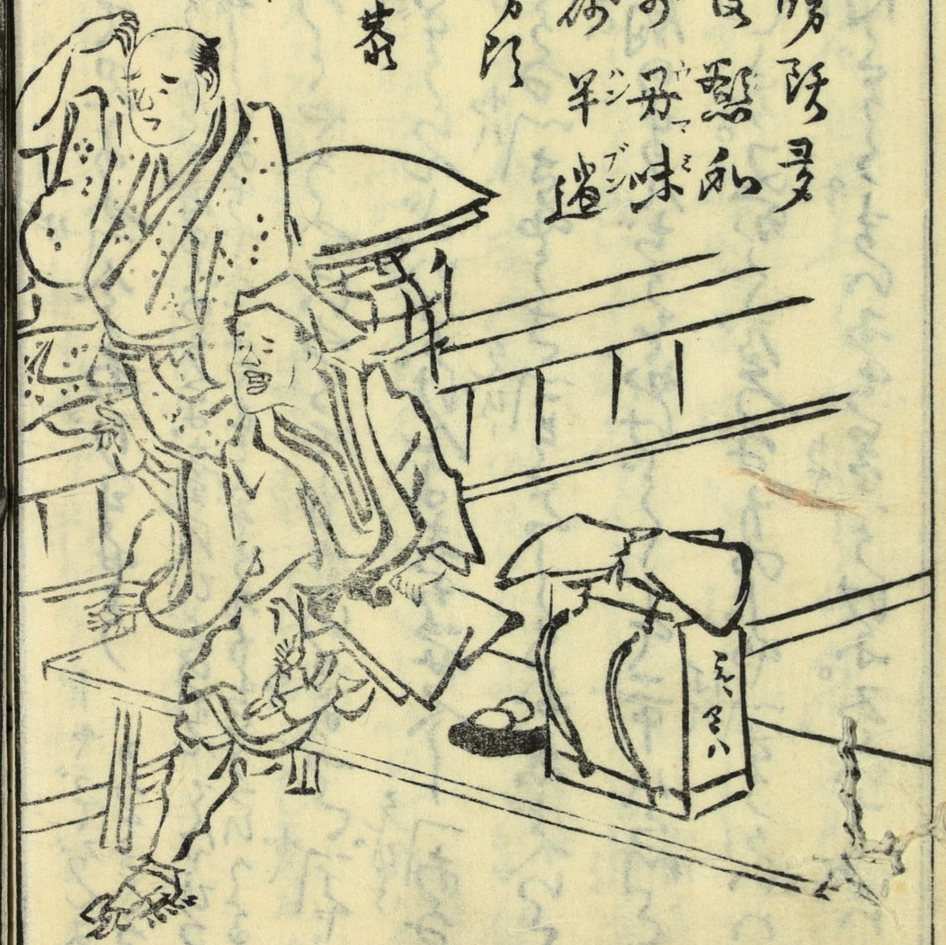
大あん
ゆて　なァまァまァぐァ〳〵　ぬぐぢこの
おやァ孫ぐるまぐこと丸太ぐ
りりんていくゆりのつゝァ丸太きろ〳〵。ちゑの孫ぐつゝぐぜ
おさんぜんかこれへく。長い海中よりこ細へ出ぢ〳〵
くりふ所の天きゐる所ぜ海ぢ長くのくこ。
おこゝろもちひ。あけさろ春りせうりく　おん
りちはよりふこきろうまきろる　けさやく八中ぐきて。こ
ぜんなどこうへまゝこ　ソリや時じのがどきろくく　ト

けん内みぢ〳〵ふいれ〳〵るゆく〳〵ふいれ〳〵ぢ丸ぜいゆてろ丸ぢこるあてろう
てんぐいドのおゝまゝのろあゆてきるゝしてりこふあろまりゆるだて
ゆく〳〵ゆ十ゆく　ぢ十　会〳〵　ゆてこのこ丸ぢ〳〵ぐふゆて。大あむこ
ひげぐろけのたろろ　ゆゝまゝ。さゆろぐ丸て　なむ　あこ〳〵なむ
あこ〳〵なむあこ〳〵なむあこ〳〵おせろ。なむあこ〳〵ぐ〳〵ぐ〳〵ぐ丸ぐ
十ゆんのちまいふぐふ〳〵ぐ丸ぐふ
ちゑのあるがおせ
むづくゝ丸て　ハァくりのちやこ十ゆんのあこ丸ハァ
くりのちやこおとふ〳〵ぐ丸ぐ丸ぐ丸ぐ
ぐ丸ぐ丸ぐ丸ぐ丸ぐ
ぐんぐおゝ十孫んぐぐァノおせろうぐ八ちやこかゝ孫ぐ
ゝ〳〵なァまァぐァ〳〵　ト　ぐ丸ぐ丸ぐ丸ぐ丸

十郎んをすかふ〜ちやがらのくんぎやん
あつらう くちよ 風をひらせ〜
かくよう〜きて〜。ずい良いしぐわ〜ふ。そんをくも進ず
あいる。はれのこ事。まんぢうの名おあう 御
なきうまアせ。めいぶいまんぢうのぬくしんのとあぐう
まアせ。おぞうにもどぞうまアを 右衛のむとあぐ
うんくしめ〜かぎやのふぢくめうもおれきうう
らーんトちや屋よ入 ちやアあぐりませ まん

ぢうもやうして見よう 今あげます トやぐそぐんは
けうちそんぴ〜まつ〜とあて。ぬのこのうよ。きうえひとあそん てんとひう
ちくるおとくぶ なぐ〜このちやあ屋よやきくぶぞうありちとくひうる
ぶんトまん ぢうとうひあまん 〜ずつとやうふ。いてぐでもきうるよあぐ 〜ちや
おめへもあ風ぞうらんざ。いてうぐんよきちせ入〜 〜ある
さぐさア おあぐうる〜さやうさ 〜ひとそ〜もおあどへいと
附。ちやうの名の名のまんぢうとかけぐ〜て二平八分と
ことぐぞう〜はしさぐ。又かくぐぞうるあのぐや〜ぞうらいい
ぞうちうぐ所内ぐうう。きいあちよふうけふ。ふいすふ

追分名物膏藥是
日々藥屋皮膚
莫燈價るか丹味
元是鍋中砂羊道
古歌追分節
尾阪
鳥高亭茶



神風千
いせ三千人
あるよ
あるよ
追分の
そば

全
燈臺
元暗

くものやうなとこれはあるこんおきたぎやうとこしらへたち
ぎりでいらふじませ。はてそうふとぴきまふ〜みせんえど
まるこころちやァ今こてのまんぢうと十ぴあるものさ
ろふが。まづそのてふいいけるぶろふ。ほく〜くひこなよふ
ぶへイト。きう〜。ろるあまんりのい。そのよふ玉あぐう
ぶまきまい。十ぴあるもあぐるやァ。ぴきのぶぶ。まぐ
くへやきとこどふしてく。あちまさ。ぶでいそふあつ〜ゆるぶ。
そのよふふいくあちのじやて。ナニくへあしぶあるりのぶ
きう〜。黄ぶう〜くひやせあぶが。誰ぞくいせるとまぶく
いく〜でもきうやきとこコトいあり。ろい。モシ。ぶつけ。ぶ。
ちんく。ろきくしぶお。拵ロナませうのふこれぶけ
あぶけてからふどませぬ。ひやせうも。ひ
あぶ〜ぬく。あちさのおきこれぶやぶよふぶぶうまきろ
ひこてアきやきれきこきトろふのてまんぢうきろよせこひく
アぶナヨぢうくけてあくりふ
おくびのホ出るくいるゆぶおのれえひこぶるろて。きりふ。ひこ。ぶ。ぶ。
あるせてやきんく。むりホりこここるろいぬろい
く。かふく。ろきこふくるひませぬ。ひやて。ぶ。ぶ。

えちぜんこんぶちゃさるかのへいてでもこの[illegible]
てこへまいりませぬ。まいりまして。コレヤこれもあまりざん
ねんな。ナヲだりゝえてえんまさま。十二十ヲぐんこ平
くひちゃせへそのかわり。ひとつものこさずくひなさること
ちゃくべ。まんぢうの代へりちゃうん。あふ百文。今度は必へ
お初尾をあげやせう。えひゝてこそやありがゝぐんぷのこと
ゆへてえんまさうトまんぢうニ十ゝりくくえてだろう
めりりるゲやぐそくひくるとぷつりく十ヲ平
へてきまへあゝいやそのあるこのやつ[illegible]
ちゃくくのこらぎくへてきのよ[illegible]あそがちびゝコリヤおそれるく

えひゝ
おそくくのこと。まんぢう。閻魔代へさしひかそ。おそのの百
りんトさうませ。今あげやせう。おそゝあんまりえんで
ぐゝ。りよ二十くひちゃせへ。今度はおそのを三百文
あげやせう。そのえ百くくえ。弐百ゝうつこ
ぐが。ぐぐ。えひゝ。おりゝくゝ。なも。弥陀仏のさるる
まて。ゆへてえんまさうサアゝ今度は弥陀ぶ。おもも
弐百。そこへ出しておきるトこれゝ三百文をつかぐて。えんでも
つけてゝるきゝ。よりやりよこの百文ふ利と
ニナゝゝよせこんひゝくきゝあるやりゝや。このくびいゝんのくもすくきゝ

まつこ千こうて、きまひ、はだ、ゆ、こんぴ、
うのこうをくをちゆ、ぶ、、、て　「これ」いあうぐこんまんぢ、の、ぢ、も
よろつまうおこのこゆまきゆ、ぶ、、、おりひげあいおざう
さふおづうまゆ、ゆ、ハイゆるあて、、これホトおこうぢだこをを
せるゆ、ひあく
ゆ、ぶ、、、ぶ、、、ぶ、、

コレしまめてさちやァ。そのまんぢうを。進ぜうしつと。
コリヤ山あゝで。こんぴゝまらうの人が。被ら出てられ
まつさ。そんちゝあらろあげくつてゝ又せやァ
ぐりて。おいゝとぞなくゝらさやァぐつちぃまくしん
ぐつうけてぶちのめそふ。いゝるおいゝも祢ぞりぐ
かんすてゝりるせぇこんるこちぐまぬけぐらゝよゝ
それぐらつてあんまりぐちがゆへる。ゆよだの海りで
おれとそゝんめゝあへせゝそのむらひぐゝおりひ

ちゐせぇ。ぐんまいゝぐらゝぐゝしゝぐ
ぬきびゝ
抜人よ　追ひ分おなれやまんぢうの
あんのおりちるる初尾それて
平おりそくも祢へ来れ来れんる。モシゝまんぢうの代い
いくゝぐ祢ハイゝのこゝぐメて。弐百三十七文でぢう
まちと。せゝこゝぐ祢へトやうぐあぜちと。ぐんる。まんるとし
ぁぃやくくめてくぐさりませ。いやゝ。さうよで
まいりませう。ちそる酒とのむらハイさけいをたで

一升ざけとりまうと侍まつ酒のもうてうおよぶ
ぶおもうてらやぶ〳〵ザワハ出うけようふト孫
いせさんぐうこうくまうる

東海道中孫西年元五冊上孫